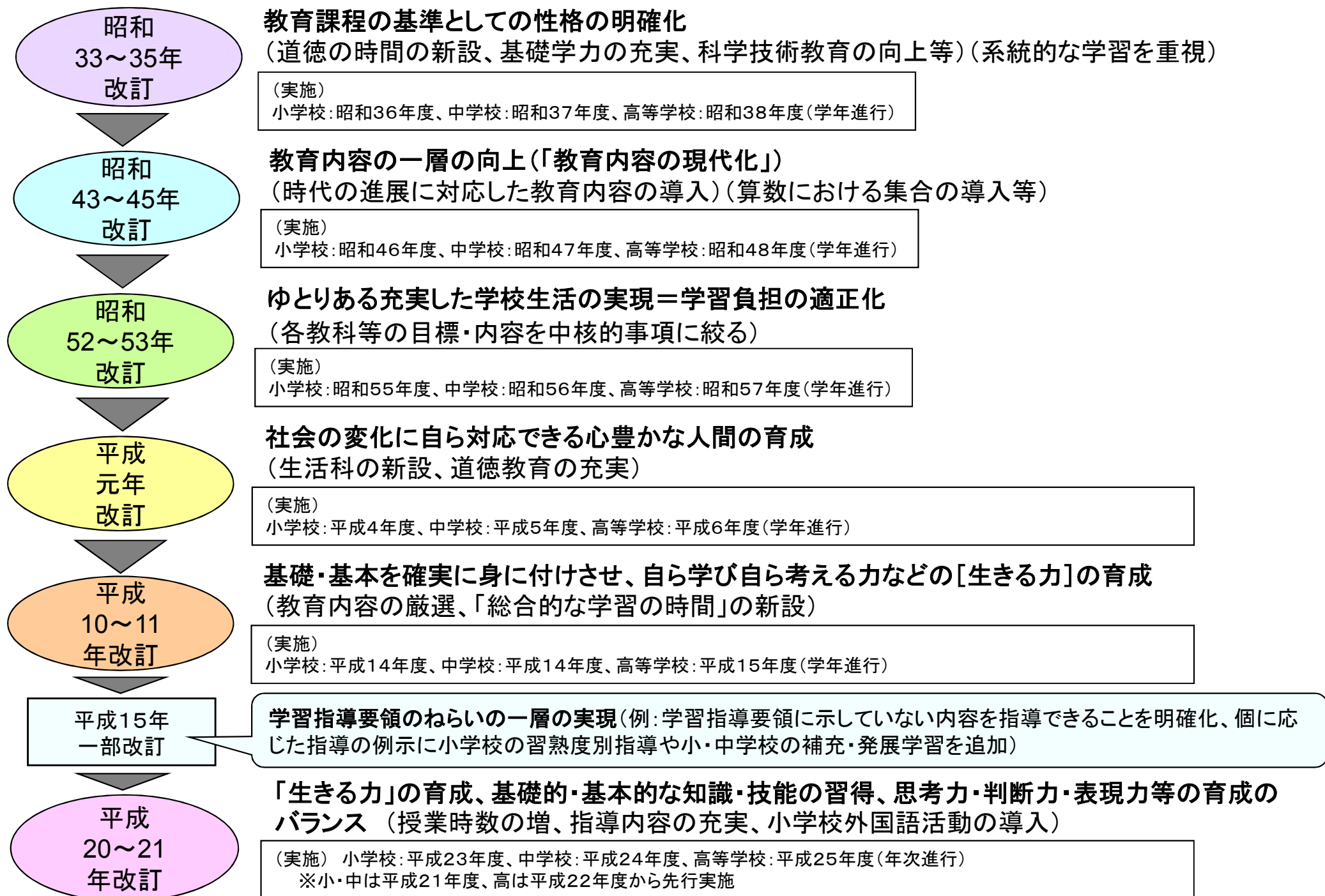


数理探究（仮称）に関する資料

学習指導要領について

学習指導要領の変遷



「学力の三要素」と「生きる力」について

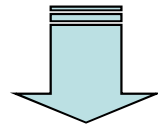
〈現行学習指導要領の理念〉

- 平成10～11年改訂の学習指導要領の理念は「生きる力」を育むこと
- 「知識基盤社会」の時代において「生きる力」を育むという理念はますます重要
- 教育基本法改正等により教育の理念が明確になるとともに、学校教育法改正により学力の重要な要素が規定

○ 学校教育法（昭和22年法律第26号）

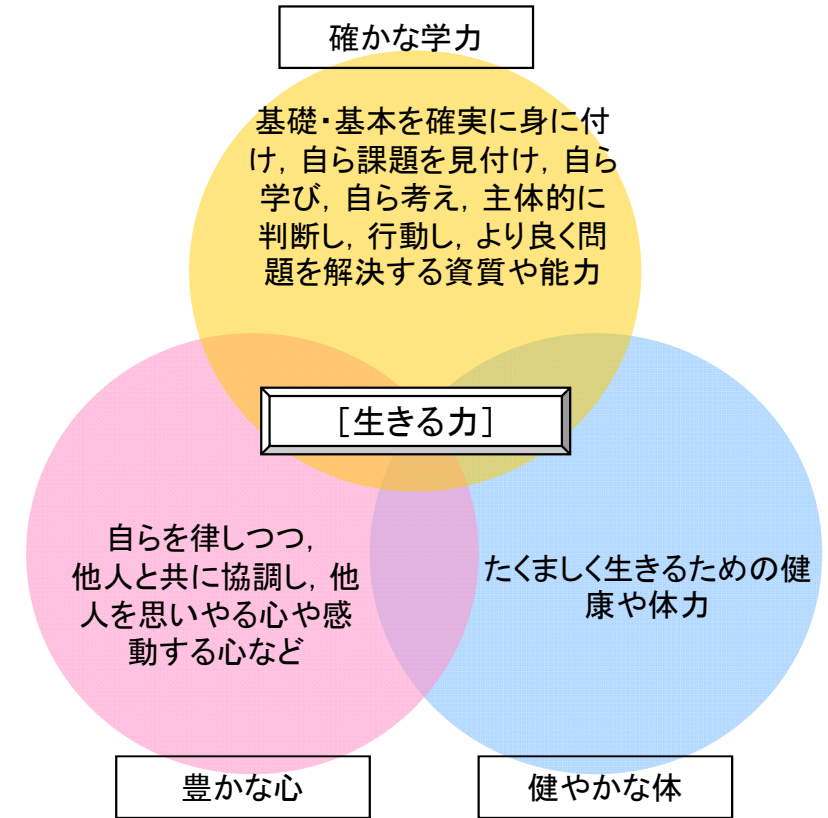
第30条（略）

- ② 前項の場合においては、生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。



現行学習指導要領においては、これまでの理念を継承し、教育基本法改正等を踏まえ、「生きる力」を育成

「ゆとり」か「詰め込み」かではなく、これからの社会において必要となる知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」をより効果的に育成



学習指導要領の方向性（数理探究（仮称）関係）

学習指導要領改訂の視点

新しい時代に必要となる資質・能力の育成

①「何を知っているか、何ができるか(個別の知識・技能)」

各教科等に関する個別の知識や技能など。身体的技能や芸術表現のための技能等も含む。

②「知っていること・できることをどう使うか(思考力・判断力・表現力等)」

主体的・協働的に問題を発見し解決していくために必要な思考力・判断力・表現力等。

③「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(人間性や学びに向かう力等)」

①や②の力が働く方向性を決定付ける情意や態度等に関わるもの。以下のようなものが含まれる。

- ・主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や、自己の感情や行動を統制する能力など、いわゆる「メタ認知」に関するもの。
- ・多様性を尊重する態度と互いの良さを生かして協働する力、持続可能な社会作りに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやりなど、人間性に関するもの。

何ができるようになるか

育成すべき資質・能力を育む観点からの 学習評価の充実

何を学ぶか

育成すべき資質・能力を踏まえた 教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

- ◆ グローバル社会において不可欠な英語の能力の強化(小学校高学年での教科化等)や、我が国の伝統的な文化に関する教育の充実
- ◆ 国家・社会の責任ある形成者として、また、自立した人間として生きる力の育成に向けた高等学校教育の改善(地理歴史科における「地理総合」「歴史総合」、公民科における「公共」の設置等、新たな共通必修科目の設置や科目構成の見直しなど抜本的な検討を行う。) 等

どのように学ぶか

アクティブ・ラーニングの観点からの 不断の授業改善

- ◆ 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか
- ◆ 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか
- ◆ 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか

主体性・多様性・協働性
学びに向かう力
人間性 など

どのように社会・世界と関わり、
よりよい人生を送るか

どのように学ぶか
(アクティブ・ラーニング)

学習評価の充実
カリキュラム・マネジメントの充実

何を知っているか
何ができるか

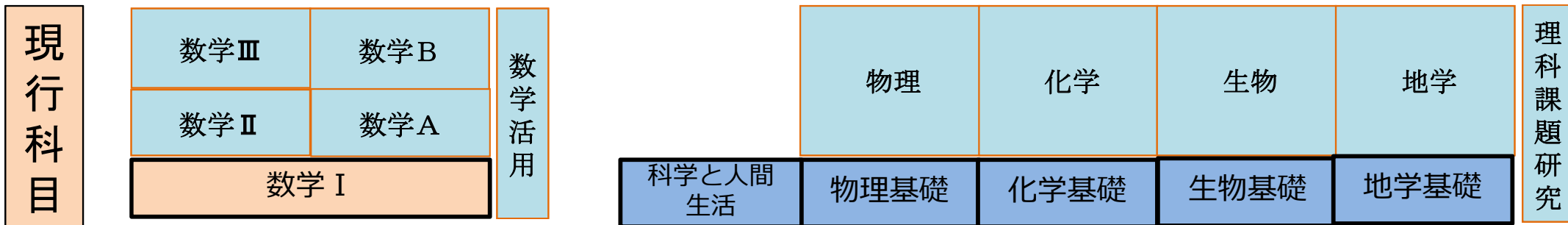
個別の知識・技能

知っていること・できる
ことをどう使うか

思考力・判断力・表現力等

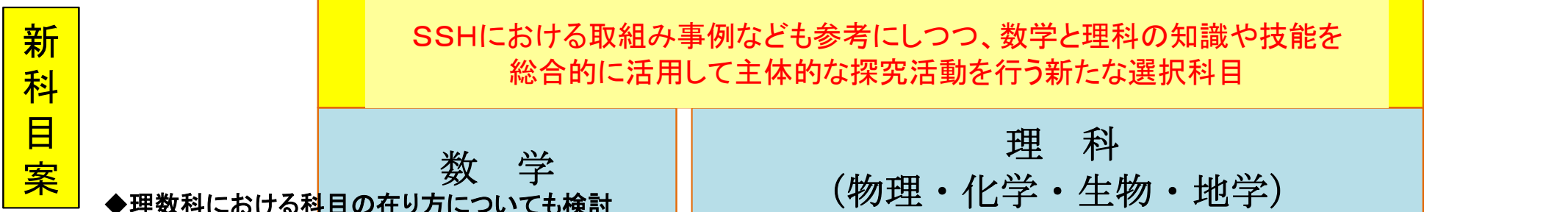
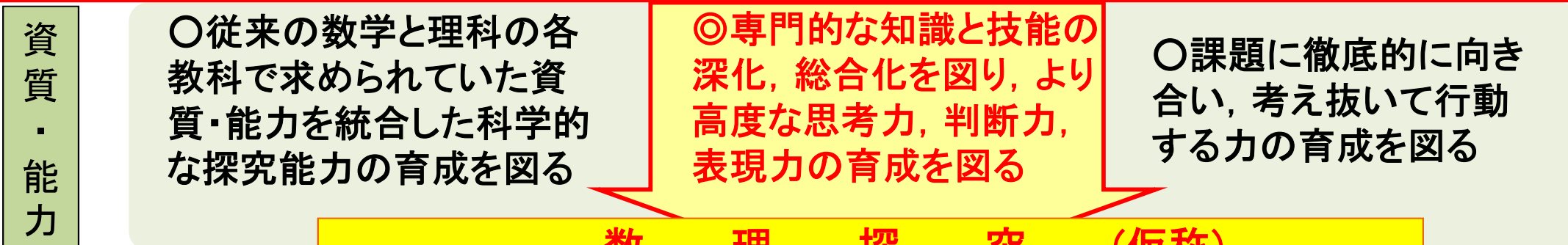
高等学校 理数科目の改訂の方向性として考えられる構成（案）

普通科の場合



- ・ 数学活用：指導内容と日常生活や社会との関連及び探究する学習を重視。
- ・ 理科課題研究：知識・技能を活用する学習や探究する学習を重視。先端科学や学際的領域に関する研究なども扱える。
- ・ 課題研究等の活動は生徒の論理的な思考を育成する効果が高いが、あまり開講されていない状況。（1割未満）
- ・ スーパーサイエンスハイスクール（SSH）で設定されている「サイエンス探究」等では、数学と理科で育成された能力を統合し、課題の発見・解決に探究的に取り組むことで高い教育効果。

【諮問文】より高度な思考力・判断力・表現力等を育成するための
新たな教科・科目の在り方について検討



◆理数科における科目の在り方についても検討

(参考 1) 理数教育の現状と課題

高等学校 理数教育の現状と課題①

理数教育の現状

① 数学・理科の科目構成と標準単位数, 必履修科目について 高等学校学習指導要領p16,19

数学Ⅲ(5)	数学B(2)	数学活用(2)	科学と人間生活(2)※	物理(4)	化学(4)	生物(4)	地学(4)	理科課題研究(1)
数学Ⅱ(4)				物理基礎(2)※	化学基礎(2)※	生物基礎(2)※	地学基礎(2)※	
数学Ⅰ(3)※	数学A(2)							

()は標準単位数を示す。また, ※はすべての生徒に履修させる科目を示す。ただし, 理科は「科学と人間生活」, 「物理基礎」, 「化学基礎」, 「生物基礎」, 「地学基礎」のうちから2科目(うち1科目は「科学と人間生活」とする。)又は「物理基礎」, 「化学基礎」, 「生物基礎」, 「地学基礎」のうちから3科目を履修させる。

② 理科の基礎を付した科目については, 旧課程よりも履修率が上昇した。

旧課程科目(H14)→現行課程科目(H26)の順に記載。%で示す。教科書需要冊数から算出したものだが, 現状より高い値が出ることに留意。
 「物理Ⅰ」29.2→「物理基礎」66.9 「化学Ⅰ」69.8→「化学基礎」93.7 「生物Ⅰ」63.8→「生物基礎」98.6 「地学Ⅰ」9.2→「地学基礎」28.8

③ 理科の各科目の教科書のページ数が大幅に増加した。(現行の学習指導要領から歯止め規定が廃止された。)

例: 「生物基礎」の場合。数字は1単位あたりのページ数を示す。「生物Ⅰ」(旧課程科目)→「生物基礎」(現行課程科目)の順に記載。
 D社: 「生物Ⅰ」85→「生物基礎」152 S社: 「生物Ⅰ」82→「生物基礎」112 K社: 「生物Ⅰ」90→「生物基礎」104

④ 先進的な理数教育を行う高等学校等をスーパーサイエンスハイスクールとして指定し、支援。 高校段階から、課題研究などに積極的に取り組み、成果をあげている。(平成27年度指定 203校: 国公私含めて)

成果Ⅰ 生徒の科学技術への興味・関心や姿勢に関する効果

SSHの取組を通して、科学技術に関する学習意欲や未知の事柄に対する興味の向上に加え、自分から取り組む姿勢、真実を探って明らかにしたい気持ちについても向上が見られる。SSH参加により・・・

- 科学技術に関する興味・関心・意欲が向上したと回答した生徒: 66% ■ 未知の事柄への興味が向上したと回答した生徒: 72%
- 自分から取り組む姿勢が向上したと回答した生徒: 62% ■ 真実を探って明らかにしたい気持ちが向上したと回答した生徒: 64%

【平成25年度スーパーサイエンスハイスクール意識調査】[国立研究開発法人科学技術振興機構]

成果Ⅱ 生徒の進路に関する効果

SSH卒業生の8割近くが理系の学部を専攻。大学院への進学率は、大学生全体の約4倍、理系の大学生の約2倍。

- SSH卒業生の卒業3年目時点の専攻分野: H20年度卒業生の78.1%、H21年度卒業生の80.6%、H22年度卒業生の79.8%が理系
- H19年度に高校を卒業した生徒の大学院進学率: SSH校 56.6% (大学生全体 14.9%、理系の大学生 30.4%)
- H20年度に高校を卒業した生徒の大学院進学率: SSH校 58.1% (大学生全体 13.9%、理系の大学生 28.9%)

【平成23・24・25年度スーパーサイエンスハイスクール意識調査】[国立研究開発法人科学技術振興機構]

高等学校 理数教育の現状と課題②

理数教育の課題

① 数学や理科の勉強が好きだと答えた高校生の割合は他教科に比べて低い。

「当該教科の勉強が好きだ」に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合
 「数学Ⅰ」38.9%、「物理Ⅰ」39.2%、「化学Ⅰ」32.4%、「生物Ⅰ」44.9%、「地学Ⅰ」45.8%
 「国語総合」47.7%、「世界史B」45.6%、「日本史B」52.2%、「英語」40.2%
 【平成17年度教育課程実施状況調査】



② 数学や理科の勉強が大切だと答えた高校生の割合は他教科に比べて低い。

「当該教科の勉強が大切だ」に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合
 「数学Ⅰ」59.0%、「物理Ⅰ」55.5%、「化学Ⅰ」42.9%、「生物Ⅰ」48.5%、「地学Ⅰ」40.5%
 「国語総合」86.4%、「世界史B」53.0%、「日本史B」60.3%、「英語」83.0%
 【平成17年度教育課程実施状況調査】

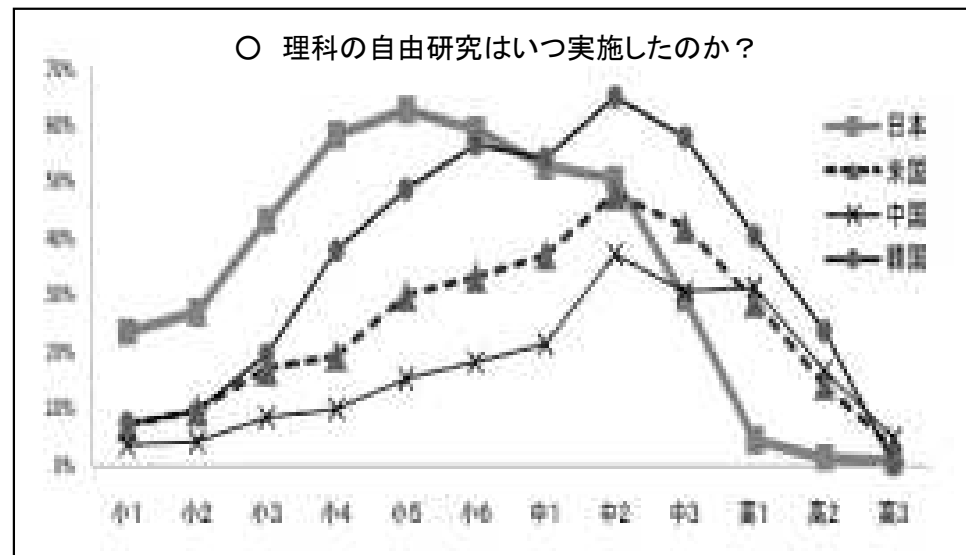
③ 「社会に出たら理科は必要なくなる」と答えた高校生の割合は日米中韓で最多。

日本:44.3%、米国22.4%、中国19.2%、韓国30.2%

【高校生の科学等に関する意識調査H26】[独立行政法人国立青少年教育振興機構]

④ 理科自由研究の実施時期は小学校5年生の時期が最多。

日本:小1で2割、小3で4割強、小5で6割を超えた高い比率。中3で3割弱まで減少、高校に入ると自由研究をほとんど行わなくなっている。
 (米国は中学校の時期に理科の自由研究が多く行われ、韓国は小5から高1の間に盛んである。中国は主に中2から高1で自由研究が多く行われている。)
 【高校生の科学等に関する意識調査H26】[独立行政法人国立青少年教育振興機構]



理数科の現状と課題

理数科の現状

①教科「理数」の科目構成と標準単位数, 必履修科目について 高等学校学習指導要領p16, 高等学校学習指導要領解説理数編p172

理数数学Ⅱ	理数数学特論	理数物理	理数化学	理数生物	理数地学	課題研究
理数数学Ⅰ						

標準単位数は指定していない。

「理数数学Ⅰ」、「理数数学Ⅱ」、「課題研究」は原則として履修させる。

「理数物理」、「理数化学」、「理数生物」、「理数地学」から原則として3科目以上履修させる。

②教科「理数」の各科目の教科書は特別に作成されておらず, 教科「理科」の各科目の教科書をあてている。

例:「理数物理」の場合,「物理基礎」と「物理」の教科書を使用。

③理数科設置校は182校(平成27年度, 公立・私立を含めて)

公立:176校, 私立:6校。(静岡県13校, 千葉県9校・・・, 愛知県0校, 広島県0校)(うち, SSH校は76校)

理数科の課題

①先進的な理数教育を行うために設置されたはずだが, 募集定員の確保に苦労している学校が地方を中心に見受けられる。(中学生の段階で文系・理系を選択することができない場合は普通科に応募が集中する傾向が見られる。)

②学校や地域によって課題が異なるなど, 格差が大きい。上記のように苦戦している学校もあれば, SSHの指定を受けて地域の理数教育の中心となっている学校もある。(進学実績や高校入試の倍率の上昇など)

「数学活用」と「理科課題研究」について

「数学活用」(教科「数学」)

①指導内容と日常生活や社会との関連及び探究することを重視。教科書あり。

学習内容:(1) 数学と人間の活動
ア 数や図形と人間の活動 イ 遊びの中の数学
(2) 社会生活における数理的な考察
ア 社会生活と数学 イ 数学的な表現の工夫 ウ データの分析

②科目「数学活用」を開講している学校は少ない。(次ページ参照)

「理科課題研究」(教科「理科」)

①知識・技能を活用する学習や探究する学習を重視。先端科学や学際的領域に関する研究なども扱える。教科書なし。

例:「天然物からの成分物質の抽出・単離と分析」, 「機械や装置の構造の研究と製作」, 「動物の行動についての研究」, 「断層のモデル実験」, 「ロボットの製作」, 「光触媒や太陽電池など光反応にかかわる技術」, 「ゲノム解析によるデータベースを利用した研究」, 「学校周辺や居住地域周辺の地学的調査」, 「化学の代表的な法則の実験による検証」 など

参考 「課題研究」(教科「理数」): 理数科で実施。科学及び数学に関する課題を設定して課題研究を実施。教科書なし。

例:「ノイズの除去に関する研究」(音や画像データに混入したノイズを除去するために行われる三角関数や積分などを使った処理について研究)
「生物の生理活性に関する研究」(身の回りの植物や野菜の成分が、他の生物に関してどのような活性があるかを調べ、その成分の性質について研究)
「道路などの曲線の研究」(高速道路や鉄道線路、ジェットコースターなどのカーブと曲線の性質との関連についての研究) など

②生徒の論理的な思考を育成する効果が高いが、あまり開講されていない状況。(次ページ参照)

科目「理科課題研究」を開講している公立学校は84校(うち定時制4校)

上記84校にはSSH校や理数科設置校は含めていない。

【平成27年度高等学校各教科等担当指導主事連絡協議会の提出資料から】

③科目「理科課題研究」を開講していないが、課題研究(数理的な内容)を学校設定科目や総合的な学習の時間で実施している公立学校は145校(うち定時制3校)

例 学校設定科目:「物理研究」, 「化学研究」, 「生物課題研究」, 「探究理科」, 「実験観察理科」, 「環境化学」, 「環境」, 「数理探究」, 「自然探究」など。

総合的な学習の時間: 理系の生徒が数理的な内容で課題研究を実施している。

【平成27年度高等学校各教科等担当指導主事連絡協議会の提出資料から】

各教科・科目【全学科共通科目】の開設状況（H25入学者）

文部科学省 教育課程・実施状況調査(H25)より
※隔年で実施

- ・全日制課程における科目の開設状況について、学科毎の割合を示している。
- ・平成25年度入学者に適用される3年間の教育課程を対象としている。
- ・共通必修科目、選択必修科目、選択科目の別なく、開設する全ての科目を対象としている。
- ・専門学科において、専門科目の履修をもって必修科目に代替する場合は、代替する必修科目に計上している。
- ・科目名に「○」とあるものは必修科目。「◇」とあるものは、該当科目のうち1科目を選択することの意。

		普通科				専門学科				総合 学科
		1年次	2年次	3年次	単位制	1年次	2年次	3年次	単位制	
数学	数学Ⅰ○	92.7%	2.4%	5.2%	6.8%	96.2%	14.4%	3.3%	1.7%	100.0%
	数学Ⅱ	20.7%	90.8%	44.0%	6.8%	2.4%	63.4%	49.6%	1.4%	96.3%
	数学Ⅲ	0.0%	19.4%	79.9%	6.7%	0.0%	1.3%	16.0%	0.9%	75.8%
	数学A	81.1%	13.2%	11.1%	6.8%	10.4%	38.4%	32.6%	1.6%	98.3%
	数学B	0.3%	78.6%	41.1%	6.8%	0.1%	14.3%	23.7%	1.2%	91.2%
	数学活用	0.0%	1.0%	6.5%	1.3%	0.0%	0.8%	4.5%	0.4%	22.9%
理科	科学と人間生活◇注	13.0%	4.9%	5.8%	1.8%	53.7%	12.4%	8.7%	1.2%	72.1%
	物理基礎◇	30.9%	53.6%	13.2%	6.7%	9.9%	37.8%	12.6%	1.3%	88.2%
	物理	0.0%	39.5%	77.9%	6.5%	0.1%	4.4%	15.3%	0.9%	75.8%
	化学基礎◇	50.0%	44.0%	19.3%	6.8%	20.5%	27.9%	25.4%	1.6%	98.0%
	化学	0.0%	52.7%	80.8%	6.7%	0.3%	3.8%	11.6%	1.0%	87.5%
	生物基礎◇	54.9%	42.1%	19.8%	6.8%	14.6%	32.6%	25.4%	1.6%	99.0%
	生物	0.1%	45.8%	84.4%	6.7%	0.5%	3.6%	12.7%	0.9%	90.6%
	地学基礎◇	9.0%	30.1%	19.3%	4.5%	2.5%	4.5%	9.9%	0.9%	52.9%
	地学	0.0%	3.0%	14.1%	2.5%	0.0%	0.4%	1.1%	0.5%	19.2%
	理科課題研究	0.0%	0.5%	2.5%	0.7%	0.3%	1.2%	1.2%	0.3%	6.1%

注 「科学と人間生活」を含む2科目又は「科学と人間生活」以外の3科目

(参考2) SSHについて

スーパーサイエンスハイスクールの概要

先進的な科学技術、理科・数学教育を通して、**生徒の科学的能力や科学的思考力等を培い、将来の国際的な科学技術関係人材を育成**するために、**先進的な理数系教育を実施する高等学校等を「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」として指定し支援**。高校段階から、課題研究などに積極的に取り組み、成果をあげている。(平成27年度203校を指定)

「第2期教育振興基本計画」(抄)(平成25年6月14日閣議決定)

・スーパーサイエンスハイスクールの取組を充実させる・・・理数系人材の養成に向けた取組を総合的に推進することにより、**理数好きの生徒等を拡大するとともに、優れた素質を持つ生徒等を発掘し、その才能を伸ばし、科学技術人材を戦略的・体系的に育成・確保する。**

「教育再生実行会議(第七次提言)」(抄)(平成27年5月14日)

・特に優れた才能を有する人材の発掘・育成」の取組として、「スーパーサイエンスハイスクール・・・の取組について、学校現場で成果を最大限発揮できるようにするための運用の弾力化を含め、引き続き充実強化する。」

SSH校の主な特徴

(※指定期間:5年、支援額:年間9~16百万円、指定校:203校(H27現在))

- 学習指導要領の枠を超え、**理数を重視した教育課程**を編成
- 主体的・協働的な学び (**アクティブ・ラーニング**) を重視
- 研究者の講義、フィールドワーク等による**興味関心の喚起**
- 国際的な活動** (海外生徒との交流、国際学会での発表等)
- 上記取組を**高大連携**や**企業連携**により高度に実施

実施による効果

<生徒の科学技術への興味・関心や姿勢に関する効果>

SSHの取組を通して、科学技術に関する学習意欲や未知の事柄に対する興味等について向上。

- 科学技術に関する興味・関心・意欲が向上したと回答した生徒：66%
- 未知の事柄への興味が向上したと回答した生徒：72%
- 自分から取り組む姿勢が向上したと回答した生徒：62%
- 真実を探って明らかにしたい気持ちが向上したと回答した生徒：64%

【平成25年度SSH意識調査】[国立研究開発法人科学技術振興機構]

<生徒の進路に関する効果>

SSH卒業生の8割近くが理系の学部を専攻。大学院への進学率は、大学生全体の約4倍、理系の大学生の約2倍。

- SSH卒業生の卒業3年目時点の専攻分野：H20年度卒業生の78.1%、H21年度卒業生の80.6%、H22年度卒業生の79.8%が理系
- H20年度に高校を卒業した生徒の大学院進学率：SSH校 58.1% (大学生全体 13.9%、理系の大学生 28.9%)

【平成23・24・25年度SSH意識調査】[国立研究開発法人科学技術振興機構]

SSH校は、全国における科学技術人材育成の拠点、理科・数学への関心を喚起する拠点としての役割

主体的に課題を発見解決に結び付けることができる、将来の国際的な科学技術関係人材を育成

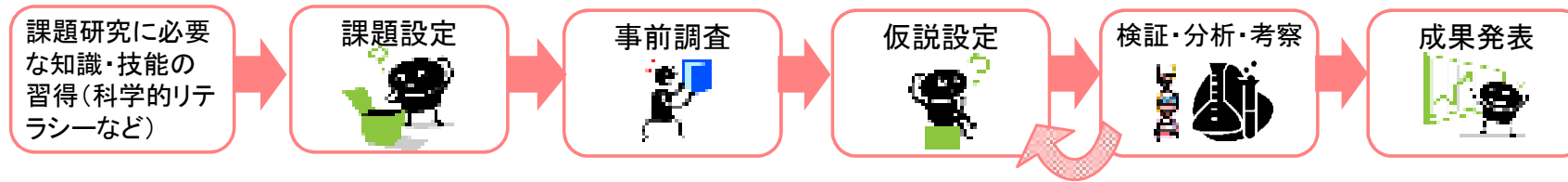
課題研究

生徒が科学に関する課題を設定し、観察・実験などを通して研究を行う「課題研究」において、大学・企業等の支援を受けながら、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習・研究を実施。

(平成27年度生徒研究発表大会表彰テーマ)

- 凸レンズにおける「“副実像”の出現位置の数式化」(熊本県立宇土中学校・高等学校)
 - ・実像とはことなる2つの像の出現範囲やゴースト現象との関係を調べ出現位置の数式化することを目的とした研究
- 関東平野の竜巻発生メカニズムに関する研究－竜巻再現実験装置の開発を通して－(沖縄県立球陽高等学校)
 - ・安価で竜巻再現装置を開発し、竜巻再現実験を行うことで、発生過程を解明することを目的とした研究

課題研究の進め方例



代表的な取組例：(1年) 研究手法の習得(基礎)、(2年、3年)より高度な課題研究の実施(課題探求)

実践例①<横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校>

- ・学校設定教科「サイエンスリテラシー」による4つのステップで研究を実施。
- STEP1—研究基礎(1年次必修)
 - ・ 科学的なものの見方、実験の基礎を学ぶ。
- STEP2—先端科学実験(1年次必修)
 - ・ 大学や企業の科学技術顧問の指導による先端科学5分野の実験
- STEP3—課題研究ゼミ(2年次必修)
 - ・ 各自が設定した先端科学のテーマに関して、大学研究室と連携を取りながら研究
- STEP4—研究発表(2年次必修)
 - ・ ※3年次選択で、さらに高いレベルでの研究サイクルの実践の他、大学等との連携による、探究活動を実施。

実践例②<福岡県立小倉高等学校>

- ・学校設定教科「課題研究」少人数グループでの主体的・協働的に取り組む活動を中心に据えた課題研究を実施
- 課題研究1(1、2年次必修)
 - ・ テーマの設定、研究手法の決定に向けたグループディスカッション
 - ・ 研究、調査
 - ・ 発表
- ※SS研究会の課題探究(課外活動)(全学年希望制)
 - ・ 定期的に専門家からの助言を受けながら、研究の内容や手法などの向上を目指す。
 - ・ 夏季休業中に他校の生徒との合同合宿・発表会等を行い、科学者としての素養を高める。

平成27年度スーパーサイエンスハイスクール指定校一覧

都道府県	学校種	学校名	都道府県	学校種	学校名	都道府県	学校種	学校名
北海道	道立	旭川西高等学校	神奈川県	市立	横浜サイエンスフロンティア高等学校	兵庫県	県立	尼崎小田高等学校
	道立	札幌啓成高等学校		県立	厚木高等学校		県立	明石北高等学校
	道立	室蘭栄高等学校		県立	西湘高等学校		県立	神戸高等学校
	道立	岩見沢農業高等学校		県立	神奈川総合産業高等学校		県立	龍野高等学校
	道立	滝川高等学校		県立	柏崎高等学校		県立	加古川東高等学校
	道立	釧路湖陵高等学校		県立	新発田高等学校		県立	豊岡高等学校
	道立	札幌西高等学校		県立	高田高等学校		私立	武庫川女子大学付属中学校・高等学校
	市立	札幌開成高等学校		県立	長岡高等学校		市立	神戸市立六甲アイランド高等学校
	私立	札幌日本大学高等学校		県立	新潟南高等学校		国立	奈良女子大学附属中等教育学校
	私立	立命館慶祥高等学校		富山県	県立		富山中部高等学校	県立
青森県	県立	三本木高等学校・附属中学校	石川県	県立	七尾高等学校	奈良県	私立	奈良学園高等学校
	県立	八戸北高等学校		県立	金沢泉丘高等学校		私立	西大和学園高等学校
岩手県	県立	釜石高等学校	福井県	県立	小松高等学校	和歌山県	県立	青翔高等学校
	県立	水沢高等学校		県立	藤島高等学校		県立	海南高等学校
宮城県	県立	盛岡第三高等学校	山梨県	県立	高志高等学校	島根県	県立	日高高等学校・中学校
	県立	仙台第一高等学校		県立	武生高等学校		県立	向陽高等学校・中学校
秋田県	県立	古川黎明高等学校・中学校	長野県	県立	若狭高等学校	岡山県	県立	出雲高等学校
	県立	仙台第三高等学校		私立	山梨英和中学校・高等学校		私立	開星中学校・高等学校
	県立	秋田中央高等学校		県立	甲府南高等学校		県立	益田高等学校
	県立	秋田北鷹高等学校		県立	巨摩高等学校		県立	倉敷天城高等学校
山形県	県立	大館鳳鳴高等学校	岐阜県	県立	葦崎高等学校	徳島県	県立	岡山一宮高等学校
	県立	横手清陵学院中学校・高等学校		県立	日川高等学校		県立	玉島高等学校
福島県	県立	鶴岡南高等学校	静岡県	市立	北杜市立甲陵高等学校	山口県	県立	津山高等学校
	県立	米沢興譲館高等学校		県立	都留高等学校		私立	岡山理科大学付属高等学校
茨城県	県立	福島高等学校	愛知県	県立	屋代高等学校	高知県	私立	清心女子高等学校
	県立	磐城高等学校		県立	飯山高等学校		私立	金光学園高等学校
	県立	会津学鳳高等学校・中学校		県立	諏訪清陵高等学校・附属中学校		国立	広島大学附属高等学校
	県立	竜ヶ崎第一高等学校		県立	恵那高等学校		県立	広島県立西条農業高等学校
栃木県	県立	緑岡高等学校	三重県	県立	岐阜農林高等学校	香川県	私立	安田女子中学高等学校
	県立	並木中等教育学校		県立	浜松工業高等学校		県立	広島国泰寺高等学校
	県立	日立第一高等学校		市立	静岡市立高等学校		県立	徳山高等学校
	私立	清真学園高等学校・中学校		県立	清水東高等学校		県立	宇部高等学校
群馬県	県立	水戸第二高等学校	滋賀県	私立	静岡北中学校・高等学校	愛媛県	県立	腕町高等学校
	私立	茗溪学園中学校高等学校		県立	磐田南高等学校		県立	城南高等学校
	県立	宇都宮女子高等学校		市立	向陽高等学校		市立	徳島科学技術高等学校
	私立	佐野日本大学高等学校		県立	一宮高等学校		県立	高松第一高等学校
埼玉県	私立	白鷗大学足利高等学校	京都府	県立	時習館高等学校	大分県	県立	観音寺第一高等学校
	県立	足利高等学校		県立	豊田西高等学校		県立	松山南高等学校
	県立	栃木高等学校		県立	半田高等学校		県立	宇和島東高等学校
	私立	作新学院高等学校		県立	岡崎高等学校		県立	高知小津高等学校
千葉県	県立	前橋女子高等学校	大阪府	国立	名古屋大学教育学部附属中・高等学校	宮崎県	県立	小倉高等学校
	県立	桐生高等学校		県立	刈谷高等学校		県立	城南高等学校
	県立	春日部高等学校		県立	明和高等学校		県立	東筑高等学校
	県立	浦和第一女子高等学校		私立	名城大学附属高等学校		県立	鞍手高等学校
東京都	県立	熊谷女子高等学校	三重県	県立	津高等学校	福岡県	県立	明善高等学校
	県立	熊谷西高等学校		県立	伊勢高等学校		県立	番住丘高等学校
	県立	松山高等学校		県立	虎姫高等学校		県立	嘉穂高等学校
	県立	川越高等学校		県立	彦根東高等学校		県立	八幡高等学校
東京都	県立	川越女子高等学校	滋賀県	私立	立命館守山高等学校	佐賀県	県立	致遠館高等学校
	県立	熊谷高等学校		県立	膳所高等学校		県立	長崎西高等学校
	県立	不動岡高等学校		国立	京都教育大学附属高等学校		県立	長崎南高等学校
	私立	早稲田大学本庄高等学院		府立	桃山高等学校		県立	宇土中学校・宇土高等学校
東京都	県立	船橋高等学校	京都府	市立	堀川高等学校	熊本県	県立	熊本北高等学校
	私立	三川学園市川高等学校		私立	立命館高等学校		県立	第二高等学校
	県立	佐倉高等学校		府立	桂高等学校		県立	大分舞鶴高等学校
	市立	千葉市立千葉高等学校		府立	嵯峨野高等学校		県立	日田高等学校
東京都	県立	柏高等学校	滋賀県	府立	洛北高等学校・洛北高等学校附属中学校	鹿児島県	県立	宮崎北高等学校
	県立	長生高等学校		国立	大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎		私立	池田中学・高等学校
	国立	東京学芸大学附属国際中等教育学校		府立	生野高等学校		県立	錦江湾高等学校
	都立	戸山高等学校		府立	豊中高高等学校		国立	球陽高等学校
東京都	私立	玉川学園高等部・中学部	滋賀県	私立	高槻高等学校・中学校	東京都		
	国立	筑波大学附属駒場高等学校		府立	大手前高等学校			
	国立	東京学芸大学附属高等学校		府立	高津高等学校			
	都立	科学技術高等学校		市立	大阪市立都島工業高等学校			
東京都	都立	多摩科学技術高等学校	滋賀県	府立	園芸高等学校			
	都立	日比谷高等学校		府立	四條畷高等学校			
	私立	東海大学付属高輪台高等学校		府立	住吉高等学校			
	私立	文京学院大学女子高等学校		府立	泉北高等学校			
東京都	都立	小石川中等教育学校	滋賀県	府立	天王寺高等学校			
	私立	早稲田大学高等学院		府立	岸和田高等学校			
	国立	東京工業大学附属科学技術高等学校		市立	大阪市立東高等学校			
				府立	千里高等学校			